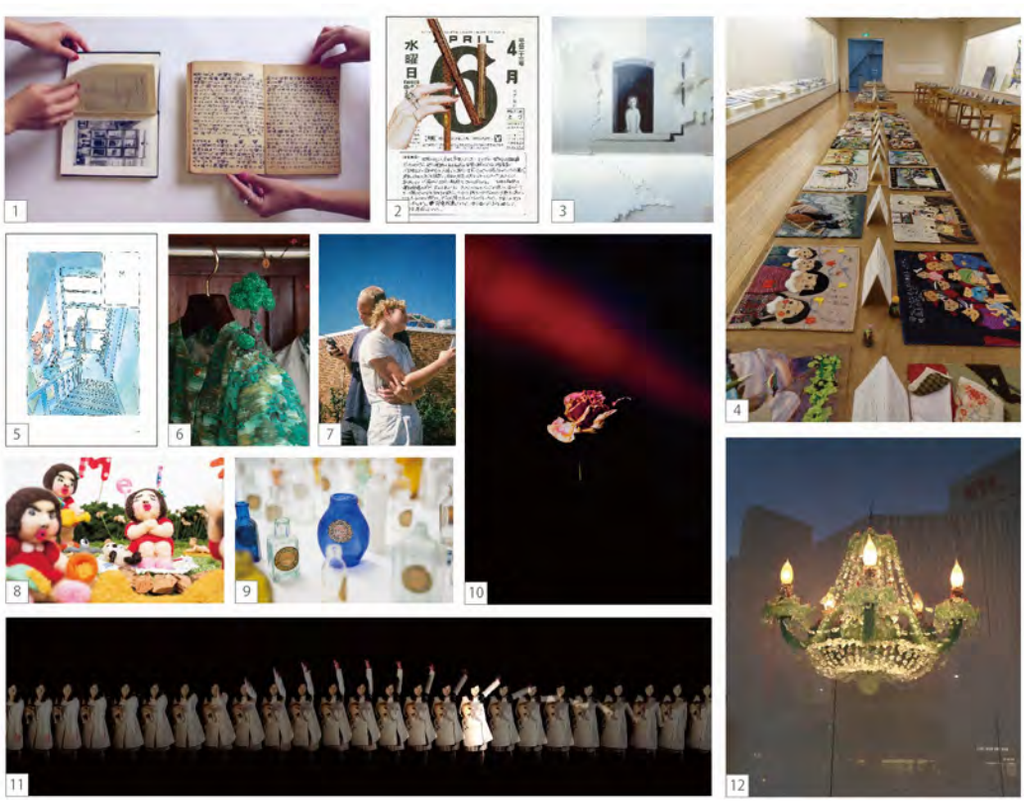
更級日記考―女性たちの、想像の部屋

会期	2019 年 4 月 6 日（土）～ 7 月 15 日（月・祝）
開館時間	平日／ 10:00 ～ 17:00、土曜・休前日／ 09:30 ～ 19:00、日曜・祝日／ 09:30 ～ 18:00 最終入館は閉館時間の 30 分前まで
休館日	月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
料金	一般 800（700）円／大高生・シニア（65 歳以上）600（500）円。() 内は 20 名以上の団体料金。中学生以下・障害者手帳をお持ちの方とその介添者（1 名）は無料。
主催	市原湖畔美術館 [指定管理者：(株) アートフロントギャラリー]



1. 小林エリカ「Your Dear Kitty，2 Diaries」©Erika Kobayashi Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery / 2. 五所純子「ツンベルギアの揮発する夜」/ 3. 渡邉良重「わたしがそれらにかえしたもの」撮影：戎康友 / 4. 鴻池朋子「物語るテーブルランナー」/ 5. 今日マチ子「センネン画報」© 今日マチ子 / 6. 髙田安規子・政子「In the wardrobe」©Akiko and Masako Takada 撮影：椎木静寧 / 7.UMMMI.「ROSE CITY」スチル / 8. 光浦靖子「メイランド」撮影：ただ / 9. 碓井ゆい「empty names」撮影：ミヤギフトシ / 10. 大矢真梨子「10 flowers」/ 11. 矢内原美邦「パラレル」/ 12. 荒神明香「toi, toi, toi」

展覧会について

市原湖畔美術館では、この度、古典日記文学「更級日記」に着想を得た、女性アーティストのグループ展を開催いたします。「更級日記」は、今から 1000 年前の平安時代に、当館の所在地である現在の市原市で少女時代を過ごした菅原孝標女が、のちに京の都で自身の半生を記した回想録と言われています。日本文学の古典として名高い「更級日記」は、現実世界の暮らしに一喜一憂しながらも、少女時代の物語世界への夢を抱き続けた、ひとりの女性の約 40 年間の日々が歌とともに書き綴られています。その世界観は現代に生きる女性の共感を大いに呼ぶことでしょう。
女性にとって、「日記」とはどのような表現だと言えるでしょうか？それは個人的でありながら、他者や世界とつながるもの、また日々の記録でありながら想像が拡がる、創作の部屋のような場所なのでは？－そういったテーマを背景に、12 組の女性アーティストによる多様で、独自で、そして親しみを感じられる、想像の世界を紹介します。

参加作家（50 音順）：
碓井ゆい、UMMMI.、大矢真梨子、今日マチ子、荒神明香、鴻池朋子、五所純子、小林エリカ、髙田安規子・政子、光浦靖子、矢内原美邦、渡邉良重

本展のみどころ

女性たちの多様な表現：
本展では、「日記的表現」を出発点に、「アート」にとどまらず、デザイン、マンガ、お笑い、ダンスなど、多種多様な世界で活躍する女性たち 12 組の表現を一堂に会します。手書きの日記からインスタレーションに映像作品、刺繍や手芸、写真など、多様なメディアの表現世界を紹介します。それぞれの想像の部屋を覗き込むような展覧会にご期待ください。

「更級日記」とは：
平安時代中期にうまれた日記文学であり、著者は菅原孝標女。日記は、寛仁 4 年（1020）年、著者が 13 歳のときの話から始まります。その時暮らしていたのは、父の赴任先である上総国ー現在の千葉県市原市にあたります。のちに京都に戻り、宮仕えや結婚を経て、夫との死別まで約 40 年の平安の女性の半生が歌とともに綴られています。特に、源氏物語への強いあこがれを綴る少女時代の描写が特徴的で、現代にも通じる「日記」という表現の面白さを伝える古典的文学のひとつと言えるでしょう。

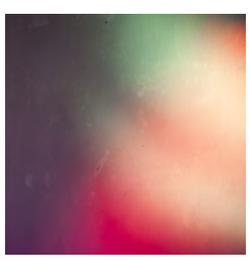
参加作家略歴・展示作品について

碓井ゆい

1980 年東京生まれ。2006 年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。主な展覧会に、「ALLNIGHT HAPS 2018 後期「信仰」#1 碓井ゆい」（HAPS オフィス・京都、2018）、VOCA 展 2018（上野の森美術館・東京、2018）。本展では、フランスの香水「MITSOUKO」に着想を得、自己と他者の関係をテーマに制作した「empty names」を展示する。

UMMMI.

愛、ジェンダー、個人史と社会を主なテーマに映像作品を中心に制作している。過去に CAF 賞岩渕貞哉賞受賞、ロッテルダム国際映画祭オフィシャルセレクション、ポンピドゥーセンター公式映像フェスティバルオールピスト東京など。現在英テレビ BBC で短編映画を制作中。本展では、遠距離恋愛のカップルの日記的コミュニケーションを描く「ROSE CITY」の映像インスタレーションを展開。



大矢真梨子

1983 年愛知県生まれ。日本大学芸術学研究科映像芸術専攻博士前期課程修了。過去の記憶を辿りながら自分自身と対峙し、内なる感情を独自の写真表現で追求する。「BERYL」（2012）、「KYRIE」（2017）シリーズなどを発表し、写真家・アーティストとして制作を続ける傍ら、広告にも活動の場を広げている。本展では、教会で撮り続ける作品シリーズ「10 flowers」を展示する。

© 今日マチ子

今日マチ子

東京都生まれ、漫画家。2004 年から毎日ブログにて綴った 1 ページ漫画『センネン画報』が注目され 2008 年に刊行。2006 年、2007 年「センネン画報」（ウェブ）、2010 年『cocoon』、2013 年『アノネ、』が文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品に選出された。本展では、デビュー作、「センネン画報」の原画を展示する。

photo : Kenshu Shintsubo

荒神明香

1983 年 広島生まれ。日常の風景から直感的に抽出した「異空間」を、美術館等の展示空間で現象として再構築するインスタレーション作品を展開。現在、犬島家プロジェクト、上越新幹線「現美新幹線」車内にて常設展示中。本展では、夜な夜な収拾した事故車のガラスの破片をシャンデリアに再生した作品「toi,toi,toi」を展示する。

鴻池朋子

1960 年秋田県生まれ。おもちゃ、雑貨のデザインを経て、1998 年より絵画、彫刻、映像、アニメーション、絵本、手芸、パフォーマンスなど、様々なメディアでトータルインスタレーションを行い現代の神話を発表、芸術の問い直しを試みている。本展では、3.11 の東日本大震災以降、鴻池のライフワークのひとつになっている「物語るテーブルランナー」を展示する。

五所純子

文筆家。映画や文芸を中心に、雑誌・書籍・パンフレットなどに寄稿多数。著書に『スカトロジー・フルーツ』（天然文庫）、共著に『１９９０年代論』（河出書房新社）、『心が疲れたときに観る映画』（立東舎）など。「月刊サイゾー」にて「ドラッグ・フェミニズム」連載中。本展では、2010 年 1 月 1 日よりブログで公開をはじめた日めくりカレンダーに女性誌のコラージュをした手書きの日記「ツンベルギアの揮発する夜」を展示する。

小林エリカ

1978 年東京都生まれ。目に見えない物、時間や歴史、家族や記憶、場所の痕跡から着想を得た作品を手掛ける。小説に散りばめられたフィクションとドキュメンタリーの要素が、私的なナラティブと社会のリアリティーの狭間で行き来する光景を追体験するようなインスタレーション作品を国内外で発表している。本展では、アンネ・フランクと実父の日記を題材に扱った映像作品「2 Diaries」を中心にインスタレーションを展開。

髙田安規子・政子

共に 1978 年東京都生まれ。一卵性双生児のユニットで制作活動している。身近なものに手を加えることで、モノの大きさの尺度、時間の認識に問いを投げかける作品を発表。スケールを主題として作品制作を通して考察を続けている。本展では刺繍を施した作品を組み合わせたインスタレーションを展開。

光浦靖子

1971 年愛知県生まれ。1992 年に漫才コンビ“オアシズ”としてデビュー。ドラマ、映画、舞台など幅広いジャンルで活動。主な著書に「男子がもらって困るブローチ集」「子供がもらって、そうでもないブローチ集」「靖子の夢」（ スイッチパブリッシング ）など。本展では、長年のあいだコツコツと制作を続けている手芸作品を展示する。

写真：佐藤暢隆

矢内原美邦

1997 年ダンスカンパニーニブロール結成代表兼振付家として活動を始め国内外のフェスティバルに招聘される。ダンスと演劇、美術などの領域を行き交いながら作品制作を行う。2005 年演劇作品に取り組みミクニヤナイハラプロジェクトを始動、劇作・演出を手がけ第 56 回岸田國士戯曲賞受賞。本展では、本展のために書き下ろした短編の一部、映像作品を展示するほか、会期中に展覧会の内容を反映させたパフォーマンスを行う。

渡邉良重

山口県生まれ。山口大学卒。（ 株)DRAFT を経て植原亮輔とともに 2012 年に KIGI を設立。洋菓子ブランド「AUDREY」や「Tartin」等のブランディングとパッケージのアートディレクションを手掛けるほか、独特の世界観で絵本等も出版。〈『BROOCH 』『JOURNEY 』リトルモア刊〉また、プロダクトデザインやファッションデザインも手掛ける。本展では展覧会広報物のグラフィック制作を担当するほか、自身がこれまで大切に集めていた身の回りの品々を用いた作品を展開。

関連イベント

全てのイベントは事前予約制です。詳細は、当館ホームページに掲載いたします。

1. アンネ・フランク 90 歳のバースデー・パーティ

日　時：6 月 9 日（日）13:30-14:30
場　所：市原湖畔美術館　芝生広場
ゲスト：小林エリカ（本展参加作家）
　　石岡史子（NPO 法人ホロコースト教育資料センター代表）
参加費：一般：1,300 円／大高生・シニア：1,100 円
　　中学生以下・障害者手帳をお持ちの方とその介添者（1 名まで）：500 円
　　※SWEETCH オリジナルケーキ付
　　※上記価格には入館料が含まれています。当日、受付でお支払いください。
定　員：20 名（先着順、事前申込制）

お申込みはこちらから

2. スペシャルトーク　更級日記考―文学少女の想像の部屋

日　時：6 月 30 日（日）13:30-15:30
場　所：市原湖畔美術館　多目的ホール
ゲスト：江國 香織
　　角田 光代
進　行：五所 純子
参加費：一般：2,500 円／大高生・シニア：2,300 円
　　中学生以下・障害者手帳をお持ちの方とその介添者（1 名まで）：1,700 円
　　※上記価格には入館料が含まれています。当日、受付でお支払いください。
定　員：70 名（先着順、事前予約制）

お申込みはこちらから

3.『日々』ーミクニヤナイハラプロジェクトー

パフォーマーと美術館内を一緒に巡る回遊型のパフォーマンスです。

日　時：2019 年 7 月 6 日（土）、7 日（日）、13 日（土）、14 日（日）

①13：00 ～　②15：00 ～

※各日 2 回開催、公演時間約 30 分

会　場：市原湖畔美術館　企画展示室、多目的ホール

作･演出：矢内原美邦／出演：橋本和歌子・八木光太郎／映像・美術：高橋啓祐

チケット：1,200 円（税込）

※別途、美術館への入館料がかかります。　当日、受付でお支払いください。

定　員：各回 30 名（事前申込制）

お申込みはこちらから

アクセス

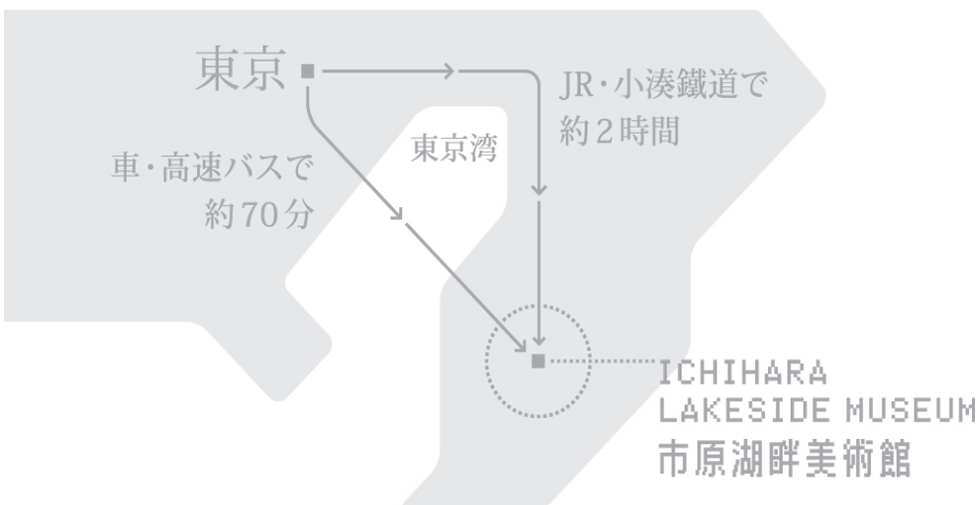
所在地：〒290-0554　千葉県市原市不入 75-1

鉄道で：JR 内房線五井駅乗り換え　小湊鐵道「高滝」駅より徒歩 20 分 / レンタサイクル 10 分 / タクシー 5 分

お車で：圏央道「市原鶴舞 IC」より約 5 分

高速バスで：東京駅・羽田空港・横浜駅より約 1 時間

（市原鶴舞バスターミナルよりタクシー　約 5 分）



広報についてのお問い合わせ

市原湖畔美術館　担当：鶴谷、冨樫

tel：0436-98-1525　　fax：0436-98-1521

press@lsm-ichihara.jp　www.lsm-ichihara.jp